

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和4年10月24日（月）

2 確認箇所

瓦礫類一時保管エリアW1

3 確認項目

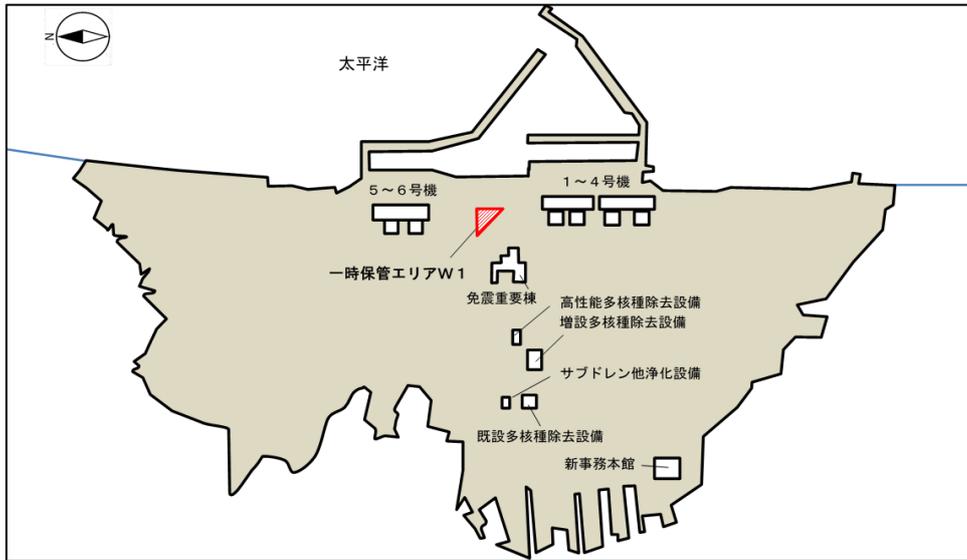
瓦礫類一時保管エリアW1の状況

4 確認結果の概要

昨年、瓦礫類一時保管エリア（以下「一時保管エリア」という。）で保管している収納容器（ノッチタンク、コンテナ）より放射性物質が漏えいした事象を契機として、飛散抑制対策（容器収納、シート養生）が必要な瓦礫類を保管している収納容器について、点検や内容物確認、耐候性のあるシート（以下「本設シート」という。）による養生が実施された。

東京電力では、今年度も引き続き収納容器の点検や内容物確認等を行っていきとしており、今回は、飛散抑制対策が必要な瓦礫類を保管しているエリアの一つである一時保管エリアW1において、一度設置された本設シートが収納容器の点検等のため一時的に撤去されていたことから、状況を確認した。（図1）（前回確認日：令和4年6月1日）

- ・現場では一部の収納容器を除き、本設シートによる養生が撤去されていた。（写真1）
- ・エリアの中央部でコンテナの確認作業が行われており、コンテナの外観や放射線量、内部の状況等を確認していた。（写真2）
- ・確認作業を実施中のコンテナを確認したところ、内部には黒色のフレコンバックが封入されていた。作業中、蓋の落下防止のため、蓋をフォークリフトでつり上げるとともに、蝶番部分に角材が挟められていた。（写真3）
- ・保管されている収納容器には、経年劣化による錆が見られたが、確認した範囲で廃棄物の漏れや破損等は見られなかった。（写真4）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
一時保管エリアW1入口の状況
(令和4年6月1日撮影)



(写真1-2)
同左
(令和4年10月24日撮影)



(写真2-1)
外観確認の状況



(写真 2 - 2)
コンテナ内部の放射線量確認の状況



(写真 2 - 3)
コンテナ内部確認の状況



(写真 3)
コンテナ内部の状況



(写真 4)
エリア内の収納容器の例

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。